

# 令和4年度 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 事業計画 案

## 1 事業目的

特定非営利活動法人全国こども福祉センター（以下、本法人）は、子ども・若者に対して声かけ、対話交流、募金活動などアウトリーチ活動を実施し、互いの理解を深める。仲間との出会い、人間関係づくりを通じて支えあい、社会活動への参加、各々の福祉（幸福）を追求できる環境を提供する。

【法人定款】「次代を担う子ども達や大人も対象にした教育・文化活動や交流事業を組織的に行い、以って地域力の底上げや社会福祉の増進に寄与する」

## 2 事業の実施に関する事項

本法人は定款の目的（本法人の定款第5条第1項）のもと、特定非営利活動に係る事業（1）について公開の場で実施し、それぞれ対面、オンラインでの方法を継続する。

### （1）特定非営利活動に係る事業

①街頭パトロール・相談事業 ②居場所づくり事業 ③まちづくり事業 ④シェルター・自立支援事業  
⑤その他非行防止に関する事業

便宜上、上記の事業名称を使用し、①～⑤と事業別に分けているが、各事業内容が独立しているわけではなく、密接に関連している。事業ごとに独立したスタッフは配置しない。\*事業間での線引き、経費の按分は妥当ではないため、平成27年度より事業別に分けず、事業内容と会計を統一している。

### 【各事業の説明】

繁華街やインターネット、SNS上でSOSを受け止める場を提供していること（①）、声かけ（①）や対話・交流（①）を行うことで、その場（空間）自体が子ども・若者と路上生活者の交流拠点、すなわち居場所（②）をつくり出している。活動場所は街中であり、人がつながる場や集う場を公開、提供することで、“まちづくり”（③）にも貢献しているし、社会参加や活動の機会を提供（④）につながっている。また、家族や学校からの一時避難の場としての機能・役割も担っており（④）、コロナ禍（2020年～）は、公的機関や他のNPOが閉鎖したため、通所型による支援・シェルターとしての機能が高まっている。

## 3 事業評価方法

本法人は、特定課題の解決を第一の目的としていない。何が子ども本人の福祉（幸福）、利益につながっているのか、各自で異なるため、他者が短期間に一律で評価を行うことは適さない。活動では、参加者名簿を記録しているため、人数を集計し、それを評価の参考としたい。子ども・若者の「参加者の数」は、実際の子どもの若者本人の行動、選択に関する客観的な事実であるため、活動回数と参加者数を評価基準とする。ただし、受益者となる参加者個人の評価も最大限尊重することを強調したい。

## 4 事業予算 収支計画書（詳細別紙）

収入 128.3 千円

内訳（寄付金 90.0 千円・募金 25.1 千円・助成金 0 円・その他事業収益 13.2 千円）

交流イベント・講演収入など

昨年度決算比 133.6 千円（－5.3 千円）

支出 事業費合計 128.3 千円（事業費 127.3 千円 管理費合計 1.0 千円）  
事業費内訳（人件費 0 円、旅費交通費 55.0 千円、地代家賃 825.0 円、水道光熱費 45.0 千円  
通信運搬費 122.5 千円、広告宣伝費 75.0 千円ほか）  
昨年度決算比 132.9 千円（-3.4 千円） \*（単位：千円）

## 活動メンバーによる事業計画

本活動は支援や救済を第一の目的とせず、互いのケア、交流、各々の福祉の追求を目的としているため、アウトリーチによって出会ったメンバー（ボランティア）や活動者の目的や活動計画を尊重したいと考え、事業計画に反映している。\*基本的には、誤字脱字のみチェックし、内容の編集は行っていない。

### かとうさやかさん

今年度は、個人的に 1 度の活動で 5 組程度の子に声をかけて繋がりたいと思っています。今までは、自分から声をかけに行くので精一杯でしたが、段々と声掛けにも慣れてきたので、声をかけた子が興味を持ってくれたり、何か信頼してもらえるようなきっかけを会話の中で作れるように、会話の内容を工夫していきたいです。

団体の中では、頑張っているメンバーをよく見て、頑張りを見つけて支えられるような人になりたいと考えています。この団体は、人から頑張りが見えづらい活動をしています。そのせいもあって第三者から理解されづらく、支援や寄付に至らないという現状があります。その分、メンバー間でメンバーの頑張りを見つけて支えられる事が、活動の活力に繋がると考えています。

また、今年度は、昨年度自身から行ってこなかった広報にも力を入れていきたいと考えています。最近、インスタのボランティア垢を作って、声掛けでもフォローしてもらえるように広め始めました。もちろん団体の方も積極的に広めています。今の団体を見て、SNS を使った広報がまだまだ伸び代があると感じています。外に発信をして、人に知って貰えないと内輪だけの居場所で終わってしまいます。まだまだ SNS の効果的な使い方を熟知しきれませんが、少しずつ広げていきたいです

### さかいあやのさん

私たちが手を振るなどしても返す余裕がない子へのアプローチもしたいと思っています。認知拡大のために他の団体とコラボしてイベントを行いたいです。

### やまもとよしあきさん

話しやすいようにするため、優しいオーラを出せるようになる。声かけをして、レギュラーメンバーにしたい（目標は、半年以内に 2~3 人）。また、声かけが失敗してもその子達に認知してもらって、その子達に何かあった時に選択肢の 1 つとして見てもらえるようにする。自分だけでもいいから街頭活動で他人に文句を言わせないように活動する。

### いとうひかるさん

名古屋駅周辺や栄駅などで実施されている地域清掃活動へ参加する。

## 5 組織体制

正会員（サポーター会員含む）：24 名

理事：6 名 監事：1 名 事務局：2 名

ボランティア（グループライン所属メンバーより）：120 名

専門職による定期ボランティア（大学教員 2 名、社会福祉士 1 名、保育士 1 名、看護師 1 名）

医療機関の協力：ココカラウィメンズクリニック

包括連携協定：同朋大学